

◇東北地方太平洋沖地震に伴い「測地成果2011」を公表

1. 北陸地方の水平変動量最大値は新潟県村上市（三等三角点「大鳥屋」）の1.41 m

平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震に伴い、大きな地殻変動が観測された地域（1都19県）では測量成果の公表を停止していましたが、10月31日に改正値を公表しました。新しい測量成果の名称は、「測地成果2011」に改め、基準点成果の書式も変更しました。なお、地震後の余効変動が東日本の広い範囲で継続していますが、その変動速度は小さくなってきています。

北陸管内の水平変動量は図－1及び表－1のとおりです。

＊「測地成果2011」等に関するお問い合わせは北陸地方測量部調査係（Tel 076－441－0933（直通）、E-mail pub-hr@gsi.go.jp）までお願いします。

＊水平変動量は東北地方太平洋沖地震及びその後の余効変動、測地成果2000（元期1997.0）以降の地殻変動も含まれています。

＊改定測量成果の詳細については「基準点測量成果の取り扱いについて」をご参照下さい。

<http://sokuseikagis1.gsi.go.jp/SysMsg/h23touhokutaiheiyou.html>

＊北陸管内（新潟、富山、石川、福井の各県）で標高補正に該当する水準点はありません。



図－1 北陸地方の水平変動量

表－1 県別水平方向の最大変動量

番号	県名	市町村名	水平変動量（m）	基準点種別	点名
①	新潟県	村上市	1.41	三等三角点	大鳥屋
②	富山県	黒部市	0.50	電子基準点	宇奈月
③	石川県	輪島市	0.58	電子基準点	舳倉島
④	福井県	勝山市	0.26	三等三角点	大日山

2. 座標補正パラメータ等の公表

公共基準点等の座標値を補正する座標補正パラメータ及び標高補正パラメータは10月31日より国土地理院ウェブサイトで提供しています。このパラメータは、補正ソフトウェア「PatchJGD」及び「PatchJGD（標高版）」と呼ばれ、簡単な操作で周辺の三角点や電子基準点と整合がとれた公共基準点等の成果を得ることができます。また、数値地形図等の成果を補正するための「DM補正ソフトウェア」にも適用されます。

*各補正ソフトウェアについては、以下のURLをご参照下さい。

座標補正 <http://vldb.gsi.go.jp/sokuchi/patchjgd/agreement.html>

標高補正 http://vldb.gsi.go.jp/sokuchi/patchjgd_h/agreement.html

DM補正 <http://psgs.v.gsi.go.jp/koukyou/public/dm/download/agreement.html>

3. 成果改定に伴う説明会の実施

北陸地方測量部では、平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震に伴う基準点成果の改定に伴い、北陸管内の自治体、測量関係者等への説明会を実施しました（タイトル：基準点成果改定と公共測量について、①東北地方太平洋沖地震の地殻変動②基準点成果改定③公共測量成果の補正）。

各会場では多くの方々に参加していただき、「測地成果2011」への移行等に対する関心の高さが伺えました。説明会の実施状況は表-2のとおりです。

表-2 各説明会における参加状況

日 付	対象機関	場 所	参加人数
10月 6日(木)	富山県及び県内市町村	富山県庁	81名
10月12日(水)	石川県及び県内市町村	石川県庁	79名
10月14日(金)	富山地方法務局、石川地方法務局	富山合同庁舎	20名
10月17日(月)	石川県測量設計業協会	石川県地場産業センター	49名
10月18日(火)	福井県及び県内市町	福井県庁	68名
10月24日(月)	新潟県及び県内市町村	新潟県庁	122名
10月25日(火)	新潟県測量設計業協会	新潟テルサ	105名
11月11日(金)	福井県測量設計業協会	福井県中小企業産業大学校	55名
11月15日(火)	北陸地方整備局	新潟美咲合同庁舎	75名
11月17日(木)	富山県測量設計業協会	富山市体育文化センター	56名
11月24日(木)	地籍調査担当者	石川県水産会館	55名
11月25日(金)	北陸地方整備局	金沢河川国道事務所	70名
11月30日(水)	北陸農政局	北陸農政局	44名

◇東日本大震災からの早期復旧・復興に向けた平成23年度第3次補正予算に約72.8億円（国土地理院分）◇

東日本大震災の復旧・復興事業が急ピッチで進められていますが、平成23年11月21日、第3次補正予算が成立したことを受け、国土地理院分として約72.8億円が認められました。これは平成23年度災害復旧に伴う補正予算約72.3億円分と合わせ、約145億円となります。第3次補正予算内訳（国土地理院分）は①電子基準点による地殻変動監視体制の強化（主として電子基準点の受信装置の更新等、図-2）に約40億円、②地理空間情報のアーカイブ整備（過去の空中写真や地図等をデジタル化し、データのライブラリー登録、利用環境の整備等、図-3）に約17億円、③高精度標高データ整備（津波被害に備え、航空レーザ測量による高精度標高データの整備、図-4）に約15億円で、これらの補正予算は執行中です。

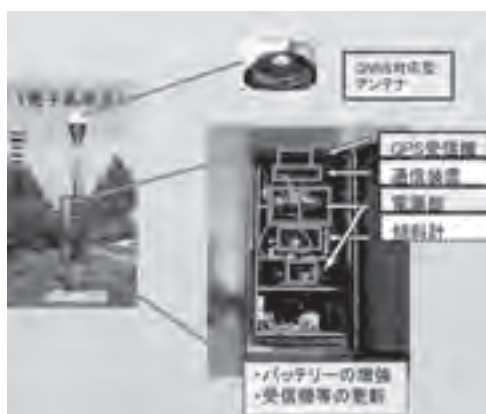


図-2 ①電子基準点による地殻変動監視体制の強化（部分表示）



図-3 ②地理空間情報のアーカイブ（部分表示）

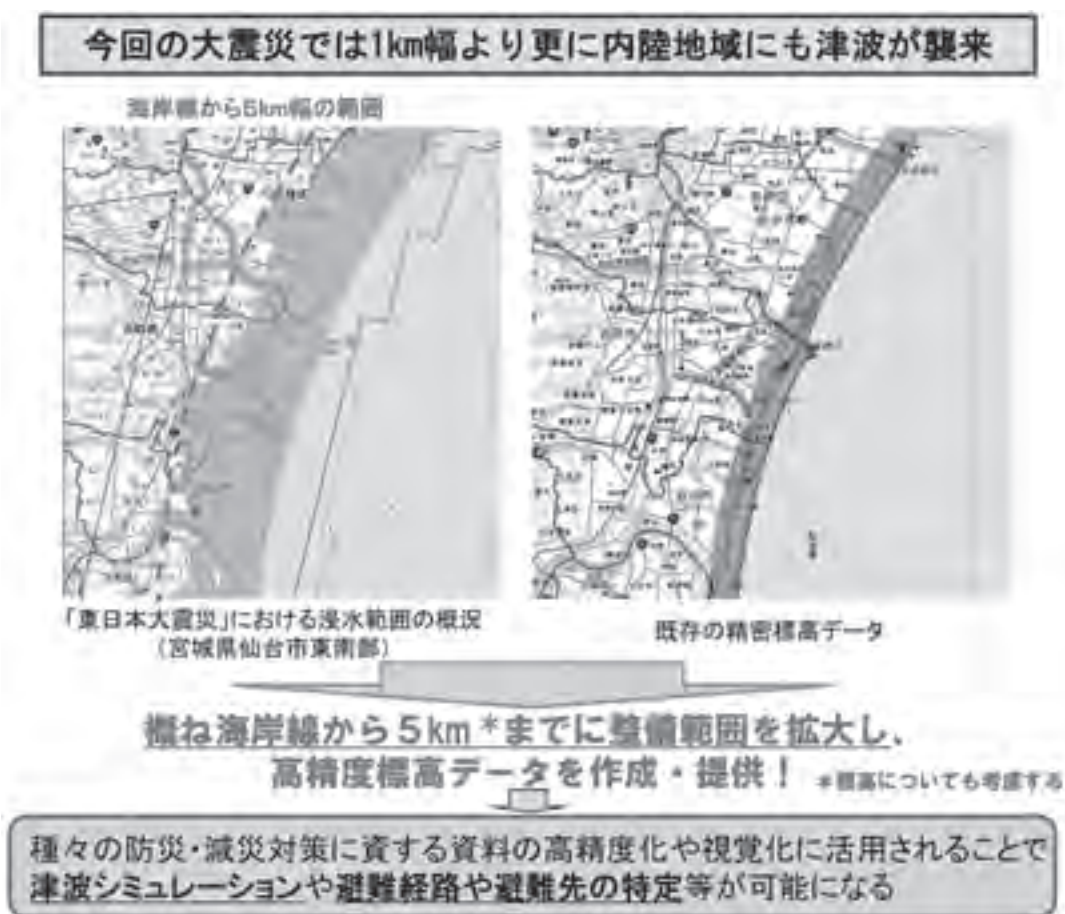


図-4 ③高精度データ整備（部分表示）

◇平成24年度、大震災の復旧・復興予算に約5.3億円を要求(国土地理院分)

国土地理院では復旧・復興のため、次年度においても、災害復興計画基図を最新の状態に更新・提供するための予算要求（約5.3億円、図－5）をしています。



図－5 災害復興基図の更新

* 東日本大震災に伴う復旧・復興関連予算については、以下のURLをご参照下さい。

平成23年度国土地理院関係補正予算案の概要（平成23年4月25日）

<http://www.gsi.go.jp/WNEW/PRESS-RELEASE/23hoseiyosan.html>

平成23年度第3次補正に伴う補正予算案の概要（平成23年10月25日）

<http://www.gsi.go.jp/WNEW/PRESS-RELEASE/23hoseiyosan3.html>

平成24年度予算概算要求（平成23年9月30日）

<http://www.gsi.go.jp/WNEW/PRESS-RELEASE/24yosan-youkyu.html>

◆平成23年度地理空間情報の活用推進に関する北陸地区産学官連絡会議（第1回）を開催

学識経験者や関係機関・団体により構成される北陸地方産学官連絡会議の第1回全体会議が10月11日(火)、富山市呉羽ハイツで開催されました。この会議は基本計画の中で位置付けられている基盤地図情報の情報提供、及び地理空間情報の利活用に関する意見交換などを実施し、産学官の連携強化を図ることを目的としています。

第1回目の議題として、以下のとおり発表がありました。

(1) 地理空間情報活用推進に関する情勢について（北陸地方測量部 中島地理空間情報管理官）

(2) 地理空間情報を活用した研究、・取組について

①ここまでできる！フリー GIS & 基盤地図情報（星稜女子短期大学 沢野准教授）

②準天頂衛星「みちびき」と基盤地図情報がもたらす地理空間情報サービス（金沢工業大学 徳永教授）

③十日町市における統合型GIS活用事例（十日町市 佐野係長）

④製品仕様書の導入について（近畿中部北陸GIS技術研究会 小西氏）

その後の質疑応答及び意見交換では、市民公開用のGISを構築、GPS携帯を用いた災害現場写真などの登録といった先駆的な取り組みを行っている十日町市に対する質問が相次ぎました。

今後、第2回目の全体会議（金沢市）及び分科会（福井県）の開催を予定しています。



会議の様子



十日町市の佐野係長

◆福井市小学校（2校）で地図教室を開催

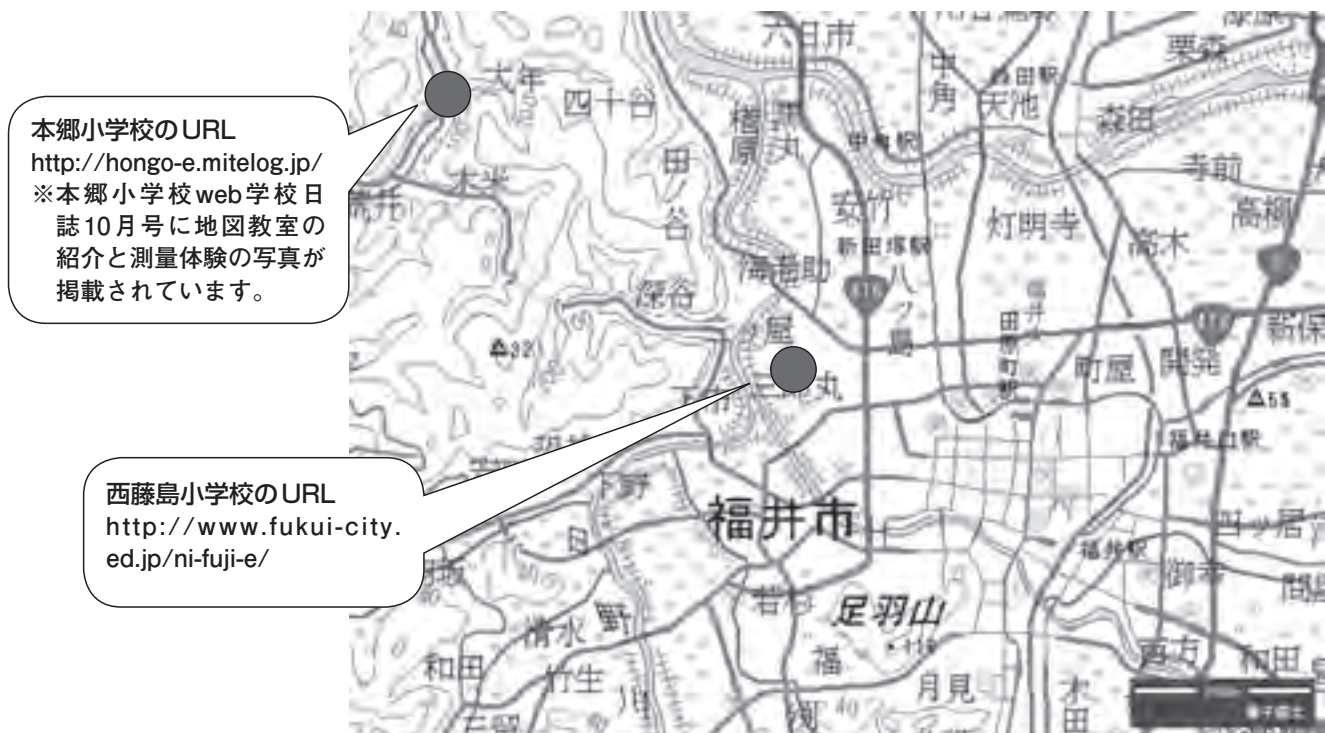
10月20日(木)、福井県の小学校で地図教室（主催：福井県測量設計業協会）が開催され、北陸地方測量部では職員2名を派遣しました。地図教室は小学校の児童たちを対象に、講義と測量体験の二部構成で、午前、福井市立本郷小学校（5、6年生）24名、午後からは市立西藤島小学校6年生52名に参加していただきました。

児童たちは地図ができるまでの講話と東日本大震災を記録した空中写真のスライド紹介には真剣な眼差しで聞き入っていましたが、3Dに見える余色立体図には「おーっ」と歓声が上がっていました。また、地図記号クイズを出した時、風車や老人ホームなど、近年生まれた地図記号をすらすらと回答し、少々びっくりさせられました。後半の測量体験はグラウンドで澄み切った青空の下、歩測による距離計測、GPS、トータルステーションなどの測量機器を体験しました。

児童たちは基準点測量や地図作成の重要性について、その一端を垣間見ることができたのではないのでしょうか。



TSで測量体験する児童たち



図－6 地図教室を実施した福井市の小学校

◇基盤地図情報の最新提供状況（平成23年11月～平成23年12月）

平成23年11～12月に基盤地図情報が新たに提供開始された地域です。

・基盤地図情報【縮尺レベル2500以上】

（行政区画の境界線及び代表点、道路縁、軌道の中心線、標高点、海岸線、水涯線、建築物の外周線、市町村の町若しくは字の境界線及び代表点（標高点は独立標高点のみ）。）

平成23年11月17日提供

- ①新潟県：燕市（全域）
- ②新潟県：新潟市（一部）
- ③新潟県：新発田市（一部）

……基盤地図情報提供地域
（平成23年12月20日現在）



図－7 基盤地図情報提供地域

- ・基盤地図情報 【縮尺レベル2500以上】
(標高点 (DEM)、5mメッシュ (標高) 航空レーザを基に作成)

平成23年12月21日提供

- ①糸魚川地区 新潟県：糸魚川市 (一部)、上越市 (一部)
- ②魚津地区 富山県：富山市 (全域)、魚津市 (全域)、滑川市 (全域)、黒部市 (全域)、上市町 (全域)、立山町 (全域)

◇測量士・測量士補試験に関するご案内

平成24年度測量士・測量士補試験の受験に関するご案内です。測量士・測量士補試験は、測量法及び測量法施行令に基づいて行われる国家試験です。

測量士となるのに必要な専門的学識及び応用能力を有するかどうか、また、測量士補となるのに必要な専門的技術を有するかどうかを判定するために行い、試験に合格すれば、それぞれ測量士又は測量士補となる資格を取得できます。

平成24年度においては、以下のとおり試験に関しての実施概要が発表されました。詳細につきましては、国土地理院ホームページ (<http://www.gsi.go.jp/LAW/SHIKEN-h23-siken.html>) または、問い合わせ先までご連絡ください。

- 受験資格：年齢、性別、学歴、実務経験などに関係なく受験できます。
- 試験方法：測量士・測量士補ともに筆記試験です。
- 試験日：平成24年5月20日(日)
- 北陸の試験地：新潟県、富山県 (近隣の試験地は東京都、愛知県、大阪府などです。)
- 願書受付期間：平成24年1月5日(木)～平成24年2月13日(月)
- 合格発表及び通知：平成24年7月20日(金)
- 問い合わせ先：〒305－0811 茨城県つくば市北郷1番 国土地理院
総務部 総務課 試験登録係
TEL 029－864－8214, 8248